

“Defining and assessing the transformational nature of smart city governance: insights from four European cases”

「スマート・シティ・ガバナンスの変形的な性質の定義及び評価：ヨーロッパの4都市の事例に基づく洞察」

Giorgia Nesti

Abstract

スマート・シティは、情報通信技術の広範な使用、並びに環境面での持続可能性及び経済成長とイノベーションに基づく都市開発の新しいアプローチである。本論文の目的は、スマート・シティの採用が既存の制度構造や行政実務の変容を必然的に伴うか否かを論じることである。この目的のために、アムステルダム、バルセロナ、トリノ、ウィーンという4つのヨーロッパにおけるスマート・シティの事例を分析する。

本論文では、これらの都市のガバナンスのモデルを説明し、都市の政府構造で生じた変化の程度を調査し、主要な問題を概説し、新興のNPG (New Public Governance) パラダイムとの潜在的な関係性を特定する。

Points for practitioners

本論文は、実務においてスマート・ガバナンスがどのように実施されているのかについて詳細な考察を行い、具体的な目標、利害関係者間の関係、政策スタイル及び政策手段の結果として、都市のガバナンスにおけるスマート・シティのモデルを概説する。スマート・ガバナンスは、実験、地域の利害関係者全員との協働、そして既存の政府構造の再構築に基づく新たなアプローチの採用を必然的に伴う。この過程は公的主体によって主導されるべきであり、相互作用の管理、協働の強化、民主的な正当性及び説明責任を促進し、市民に対する具体的な成果を実現するための適切な方法によって支えられるべきである。